



わかりやすく解説

野田市の財政

平成30年度決算版

みんなで作る 学びと笑顔あふれる コウノトリも住めるまち

野田市 企画財政部 財政課





はじめに

「野田市の財政状況はどうなっているの?」「決算書を見てもよくわからない」

こうした皆さんの疑問にお答えしようと、『わかりやすく解説 野田市の財政』を作成しました。

本冊子では、平成30年度決算をもとに、皆さんに納めていただいた税金や国・県からの補助金などがどのように使われたのか、わかりやすく解説していきます。

市の予算書・決算書などは、法律などで定められた用語を使う必要があるため、一般的に聞き慣れない用語を多く使用していますが、本冊子では、できるだけ身近な表現で、簡潔に説明しています。本冊子をご覧になって、更に詳しい内容を知りたい方は予算書・決算書などをご覧いただきたいと思います。

本冊子が、少しでも市の財政（お金のやりくり）状況について理解を深める一助となれば幸いです。

財 政 課



目 次

● はじめに	・・・	1
● 予算・決算ってなに?	・・・	2
● 平成30年度の決算を見てみよう	・・・	3
● 歳入・歳出の推移は?	・・・	4
● 一般会計は13.8億円の黒字となりました	・・・	4
● 歳入決算の内訳は?	・・・	5
● 市税の内訳は?	・・・	6
● 歳出決算の内訳は?	・・・	7
● 家計簿に置き換えてみましょう	・・・	8
● 借金はしない方がいいんじゃないの?	・・・	9
● 貯金はどれくらいあるの?	・・・	10
● 財政状況は大丈夫なの?	・・・	11
● 今後の見込みはどうなっているの?	・・・	12
● 平成30年度はどんな事業を行ったの?	・・・	13
● おわりに	・・・	14





予算・決算ってなに？

Q. 「財政」ってなに？

A. 財政とは、わかりやすくいうと「お金のやりくり」のことです。

地方公共団体は、小・中学校、幼稚園、保育園の運営やごみの収集・処理、子育て世帯や高齢者、障がい者の支援、道路や公園、上下水道などの整備や維持、消防など、様々なサービスを行っています。

皆さんに納めていただいた税金などを活用して、必要性や優先度を考え、何にどのくらい使っていくか、というやりくりをしています。

市では、このやりくりを、原則、会計年度（4月から翌年3月までの1年間）ごとに行います。

Q. 「予算」ってなに？

A. 予算とは、1年間に市へ入ってくる皆さんからの税金や、国・県からの補助金などの収入を見積もって、その範囲内で、何のためにどのくらいのお金を使うかのやりくりを「計画」したものです。市の仕事は、この予算に従って行われます。

会計年度における収入を「歳入」、支出を「歳出」といいます。



Q. 予算はどうやって決めるの？

A. 市長が「当初予算」の案を作成し、前年度の3月市議会に提出します。市議会で予算の内容を審査していただき、議決を受けて予算が成立します。

年度途中で、災害や不測の事態などが生じて、更にお金が必要となる場合や、事業が廃止となることがあります。この場合は、年度途中で「補正予算」の案を作成して市議会に提出し、議決を受けています。



Q. 「決算」ってなに？

A. 会計年度が終了した後に、実際に入ってきたお金と、使ったお金の結果を取りまとめたのが「決算」です。

市の会計管理者が作成した決算書は、監査委員による審査を経て、市長が翌年度の9月市議会へ提出し、市議会の認定を受けます。





平成 30 年度の決算を見てみよう

平成 30 年度は、どのくらいの収入と支出があったのか、決算の内容を見ていきましょう。各会計の歳入・歳出決算の総額は、下表のとおりです。
一般会計は、13 億 8,324 万円の黒字となりました。



		歳入	歳出	収支差
一般会計		501 億 4,371 万円	487 億 6,046 万円	13 億 8,324 万円
特別会計	国民健康保険特別会計	181 億 8,127 万円	181 億 624 万円	7,503 万円
	下水道事業特別会計	35 億 7,113 万円	35 億 541 万円	6,572 万円
	用地取得特別会計	1 億 6,685 万円	176 万円	1 億 6,508 万円
	介護保険特別会計	115 億 2,642 万円	111 億 9,454 万円	3 億 3,188 万円
	次木親野井特定 土地区画整理事業特別会計	1 億 2,541 万円	1 億 2,541 万円	
	後期高齢者医療特別会計	17 億 7,943 万円	17 億 4,917 万円	3,026 万円
	合 計	353 億 5,051 万円	346 億 8,254 万円	6 億 6,797 万円
公営企業会計 (水道事業会計)	収益的収支(税抜)	32 億 6,619 万円	27 億 4,333 万円	5 億 2,286 万円

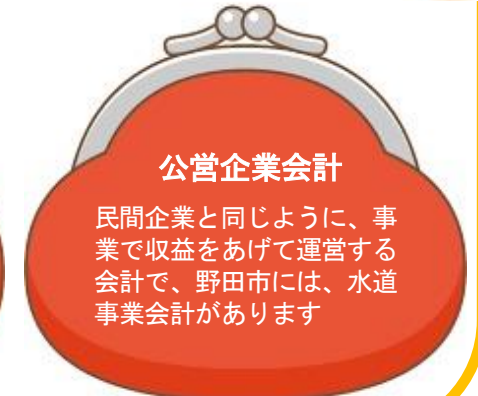
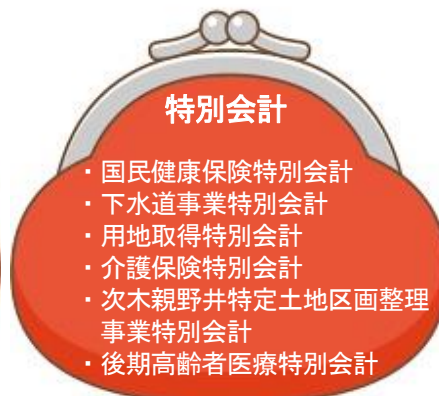
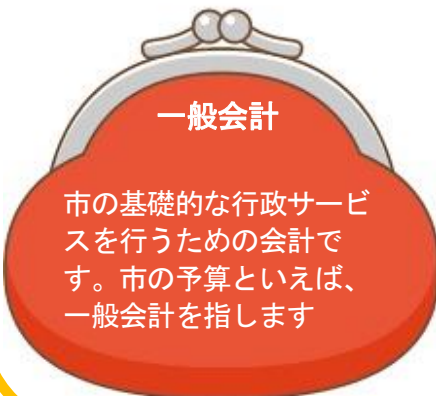
※水道事業会計は、この他に、配水管路、浄・配水設備等の更新を行う資本的収支があり、支出額(税込)は 14 億 644 万円で、資本的収入 951 万円と減価償却費等で確保された資金を財源として実施する制度です。

※表示単位未満四捨五入により作成しているため、計算値が一致しない場合があります。

会計の考え方

市では、福祉・教育・道路整備・ごみ処理など、数多くの事業を行っています。お金の出し入れをわかりやすくするため、特定の収入(国民健康保険料、下水道使用料など)があるものは、お財布(会計)を分けて管理しています。

野田市には、
6つの特別会計が
あるんだね



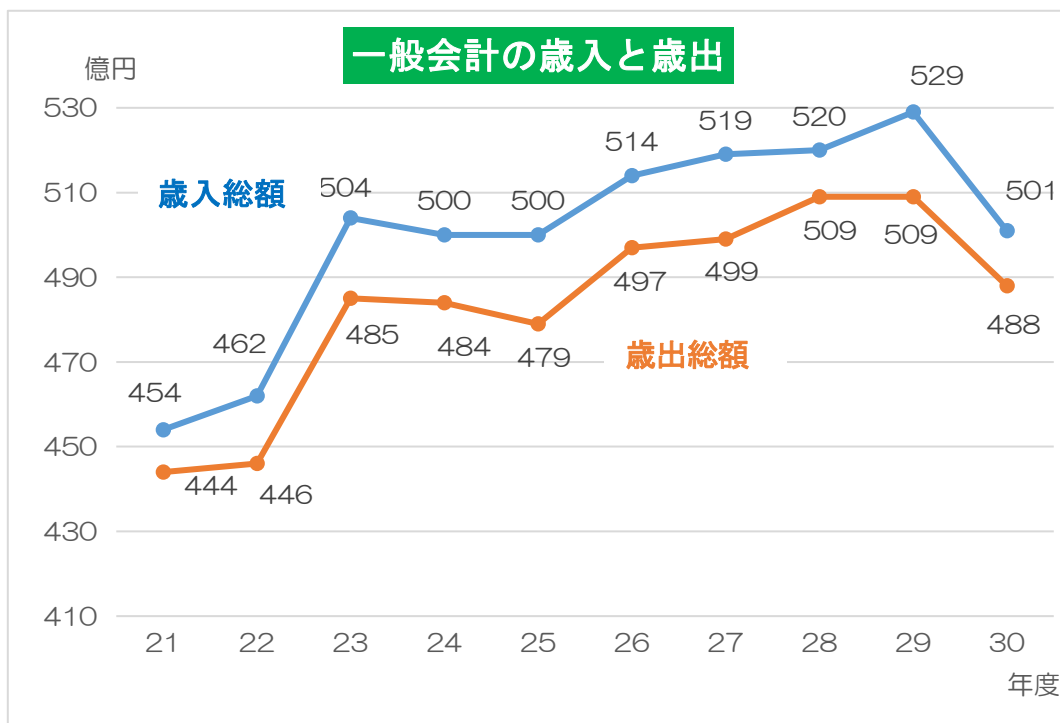


歳入・歳出の推移は？

一般会計の歳入総額と歳出総額の推移を見てみましょう。

平成 23 年度からは、東日本大震災への対応や国の経済対策の補助金を活用して多くの事業を実施してきたことから、大きく増加しています。

また、平成 26 年度からは、消費税率の引上げに伴う社会保障の充実や小中学校及び幼稚園のエアコン整備などにより、増加傾向が続いていましたが、平成 30 年度は、学校等のエアコン整備完了に伴い、減少しています。



一般会計は 13.8 億円の黒字となりました

一般会計の歳入総額から歳出総額を差し引いた約 13.8 億円から、令和元年度に繰り越した事業の財源 2 億円を除いた、11.8 億円が、実質的な黒字額です。

では、この黒字は、どのように使われるのかを調べてみましょう。



黒字は、将来に備えて、最低でも半分は貯金（財政調整基金に積立て）に回します。残りは、更に貯金をしたり、補正予算の財源として使われたりします。

30 年度の黒字は、令和元年 9 月議会で、半分以上の 7.9 億円を貯金し、残りは新たな事業など（補正予算）の財源としました。





歳入決算の内訳は？

一般会計の歳入決算額は、501億4,371万円でした。

その内訳で、一番大きいものは皆さんに納めていただいた税金である「市税」です。

また、公共施設の利用料や国・県から交付されるお金などがあります。

不足部分は、借金（市債）をしながら、やりくりしています。

市の歳入は、市税や地方交付税など使い道が自由な「一般財源」と、道路などの建設事業に使うために国から交付される補助金や建物を建て替えるために国や銀行から借りる借金（市債）など、使い道が決められている「特定財源」に分けられます。

市民の皆さんの様々なニーズにお応えするためには、使い道を自由に決めることができる「一般財源」の確保が重要です。



■市税（一般財源）

市に納めていただいた税金

■使用料及び手数料（特定財源）

公民館の使用料や住民票の交付手数料など

■その他

市有地を売却して得たお金、寄附金、貯金を取り崩したお金、前年度から繰り越したお金、保育園の保育料や施設の入所費用など特定の利益を受ける方が負担したお金など

■国・県支出金（特定財源）

国や県から交付された補助金

■市債（特定財源）

国や銀行などから借りたお金

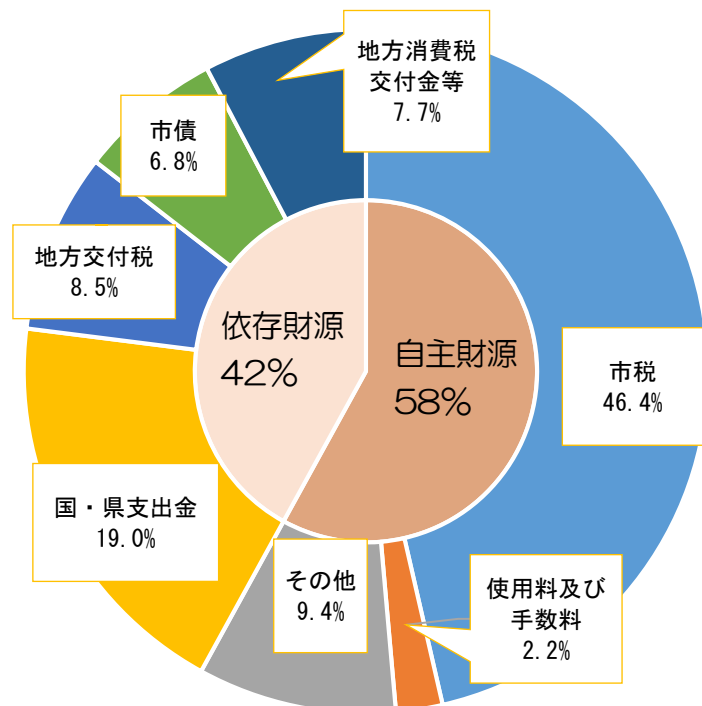
■地方交付税（一般財源）

地方公共団体間の行政サービスの差をなくすために国から配分されたお金

■地方消費税交付金など（一般財源）

地方消費税など、皆さんが納めた国・県の税金の一部が、県から交付されたお金

歳入 501億4,371万円



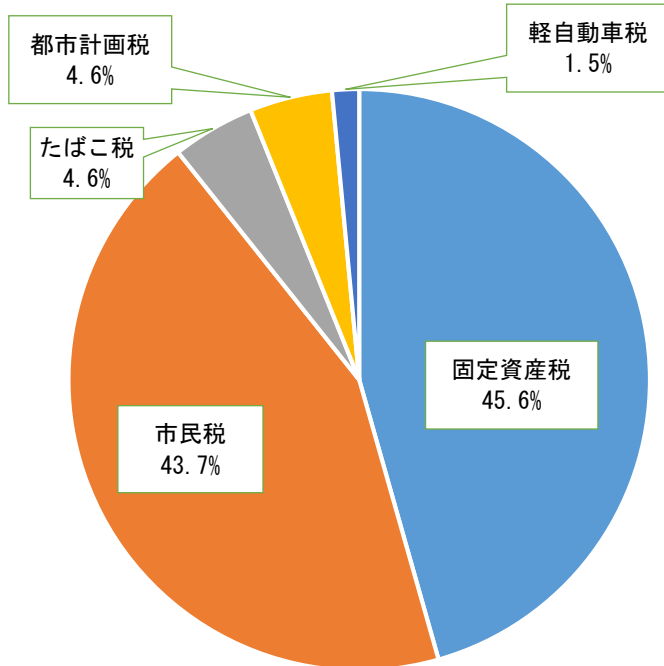


市税の内訳は？

市税は、市の歳入全体の約5割を占めています。

また、その内訳は、「固定資産税」と「市民税」で約9割を占めています。

市税 232億8,692万円



■ 固定資産税

市内に土地・家屋などを持っている人や会社が納める税金

■ 市民税

皆さんが納める「個人市民税」と、市内に事業所などがある法人が納める「法人市民税」

■ たばこ税

たばこの製造業者などが市内の小売販売者に売り渡したたばこに係る税金

■ 都市計画税

市の市街化区域内に、土地・家屋を持っている人や会社が納める税金

■ 軽自動車税

原動機付自転車・軽自動車などを持っている人や会社が納める税金

収入におけるポイント

自主財源と依存財源

収入を見る上で重要なポイントは、自主財源と依存財源の割合です。

自主財源とは、地方公共団体が自主的に収入できるお金のことをいい、市税や使用料などが該当します。依存財源とは、国や県から交付される補助金や地方交付税、市債などが該当します。

依存財源が多くなるということは、外部からのお金に頼るということですので、結果として市の自由度が減ります。自主財源を確保すれば、財政が安定し、市独自の事業をより多く行うことができます。





歳出決算の内訳は？

一般会計の歳出決算額は、487億6,046万円でした。

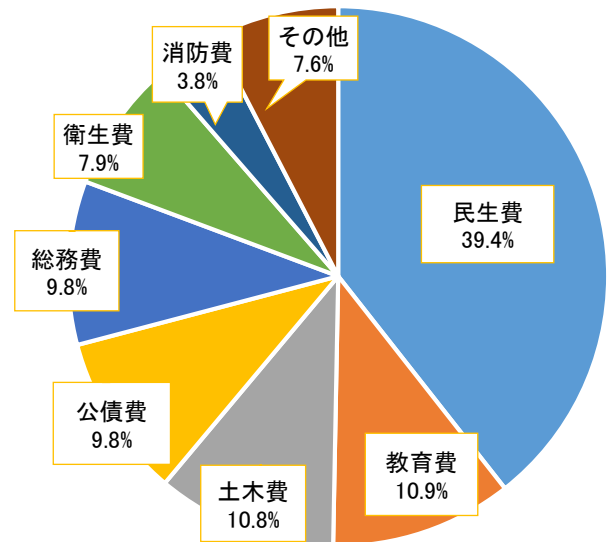
その内訳は、目的別にみると民生費（高齢者、障がい者、児童などの福祉の費用）の割合が多く、性質別では扶助費（生活保護・児童手当の給付、私立保育園の運営費補助などにかかる費用）の割合が大きくなっています。



何のために使われたか（目的別）

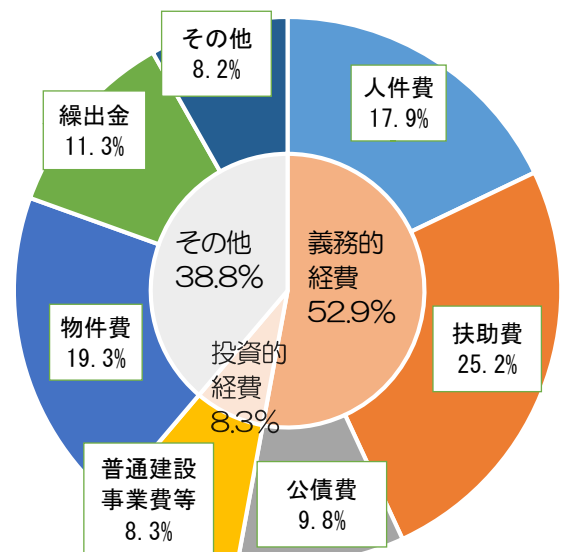
- 民生費
高齢者、障がい者、児童などの福祉の費用
- 教育費
小・中学校、幼稚園、生涯学習などの費用
- 土木費
道路や公園などの建設や改修にかかる費用
- 公債費
国や銀行などから借りたお金の返済費用
- 総務費
戸籍や住民票の発行、情報化推進などの費用
- 衛生費
ごみ処理、がん検診、予防接種などの費用
- 消防費
消防・救急活動などの費用
- その他
農業や商工業の振興などのための費用

歳出決算額 487億6,046万円



どのような用途に使われたか（性質別）

- 人件費
市職員の給与などの費用
- 扶助費
生活保護・児童手当の給付、私立保育園の運営費補助などにかかる費用
- 公債費
国や銀行などから借りたお金の返済費用
- 普通建設事業費等
道路や公園、学校などの公共施設の建設や改修などにかかる費用
- 物件費
委託料や光熱費、消耗品の購入費など
- 繰出金
特別会計の歳入を補うための費用
- その他
各種団体に対する補助金や、設備の修理費用など





家計簿に置き換えてみましょう

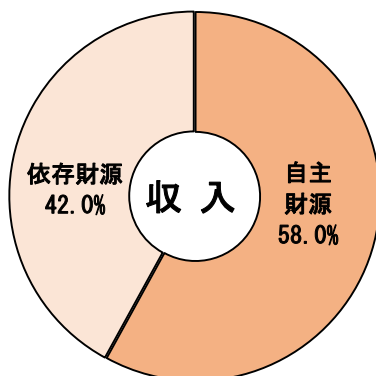
一般会計の歳入・歳出の額は、数字が大きすぎて、なかなかイメージしにくいので、市民一人当たりで計算し、家計簿に置き換えて考えてみましょう。
(市の人口：15万4,404人：平成31年3月31日現在の住民基本台帳人口)



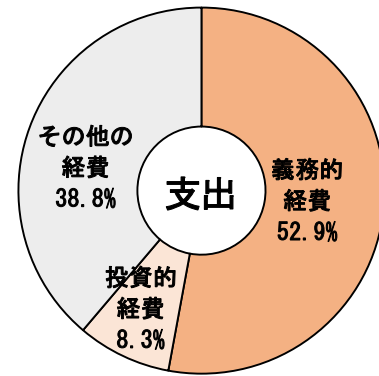
収入

支出

・給与（市税）	150,818円	・食費（人件費）	56,372円
・パート収入 （使用料・財産収入など）	21,321円	・医療費、教育費（扶助費）	79,501円
・親からの援助 （国・県支出金・地方交付税など）	114,065円	・光熱水費、通信費（物件費）	61,057円
・ローン借入れ（市債）	22,017円	・住宅ローン返済（公債費）	31,099円
・貯金の取崩し（繰入金）	3,481円	・家のリフォーム費用 （普通建設事業費等）	26,348円
・その他（繰越金など）	13,055円	・子どもへの仕送り （繰出金など）	35,565円
		・雑費（修繕費など）	11,492円
		・貯金（積立金）	14,364円
合 計	324,757円	合 計	315,798円



給与やパート収入など(自主財源)だけではやりくりできず、親からの援助や借入れなど(依存財源)に頼っている状態です。



食費や教育費、住宅ローンなど、必ず支払わなければならない経費（義務的経費）が、大きな割合を占めています。





借金はしない方がいいんじゃないの？

Q. なぜ借金をしているの？

A. 収入と支出の年度間調整を行うためです

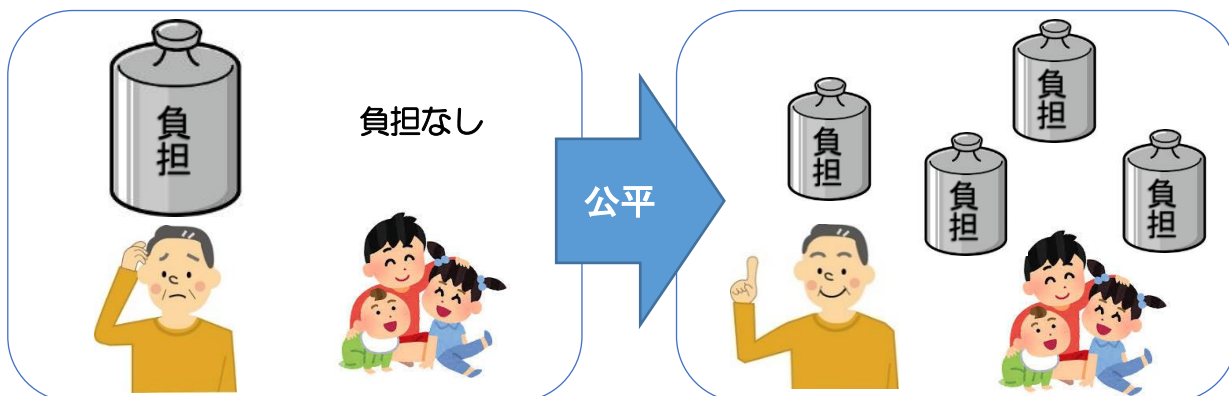
ご家庭で、家や車を買うときは、ローン（借金）を組むことがあります。市でも、学校の耐震改修やエアコン整備などの大規模な事業には、借金をしています。この借金を市債といいます。

もし、借金をしないで単年度の収入だけで支払おうとすると、ほかの事業に大きな影響が出てしまいます。

A. 世代間の負担の公平性を確保するためです

道路や公園、学校などは、長期間にわたり使用していくものです。

子どもや、これから転居してくる方など、施設を使用する将来の納税者にも、費用を負担してもらう必要があります。



Q. 借金はどれくらいあるの？

A. 30年度末で約 459 億円です。

市民一人あたりの残高は、297,042 円になります。

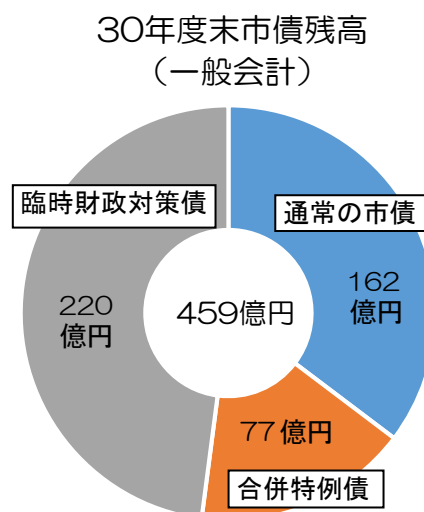
Q. ちゃんと返せるの？

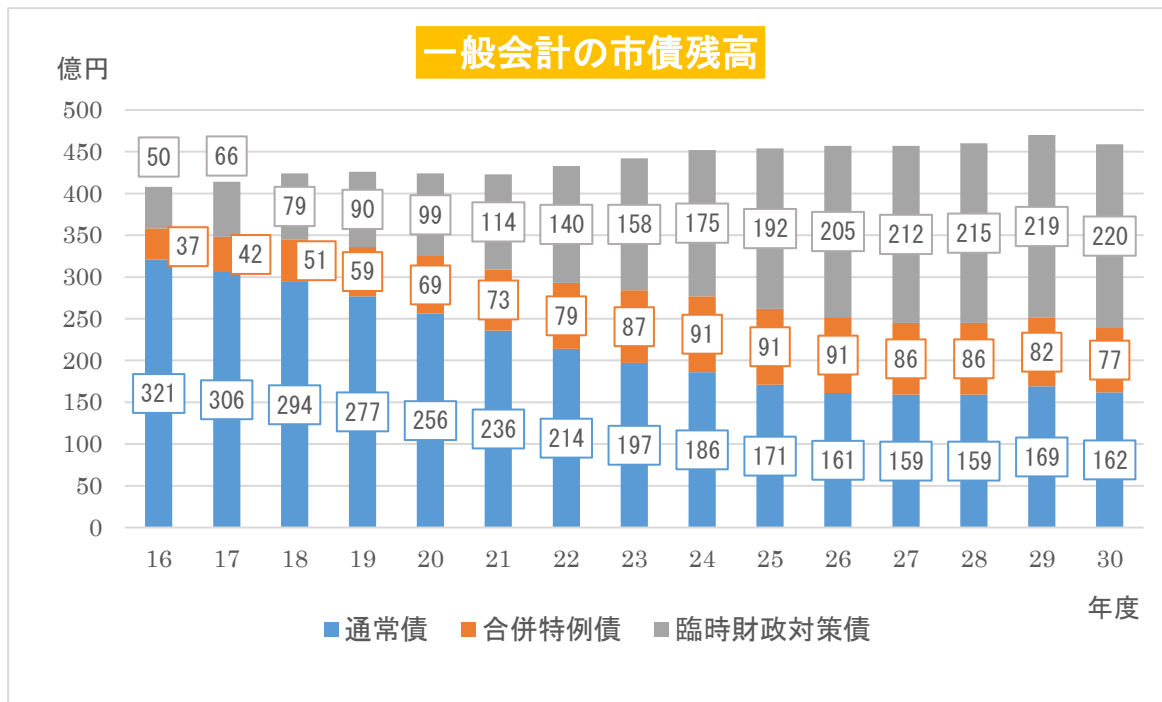
A. 市債は、右の円グラフのように、大きく分けると3つの種類があります。このうち、合併特例債は7割、臨時財政対策債は全額、国が返済を支援してくれます。

市は、こうした支援のある市債を有効活用しながらも、借り過ぎて返済に困ることがないように注意しています。

合併特例債・・・合併後の新市をつくるための市債

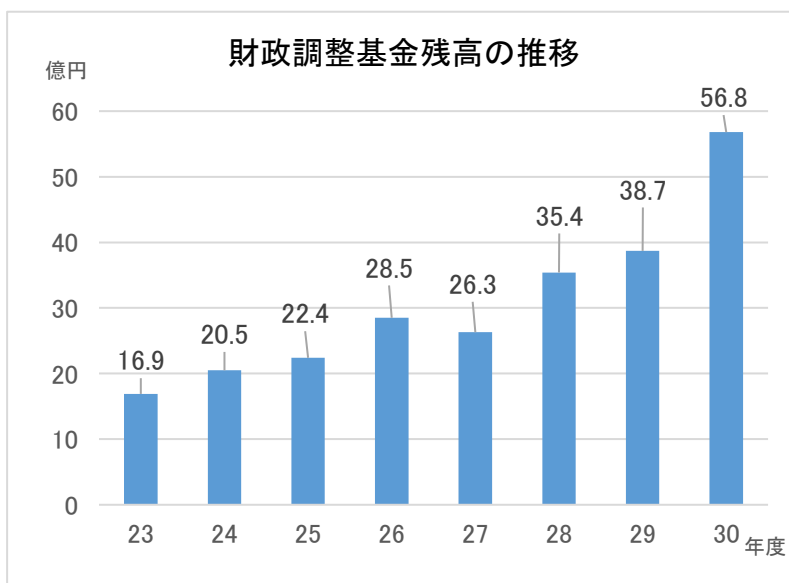
臨時財政対策債・・・地方交付税（国からの支援金）を立て替える市債





貯金はどれくらいあるの？

市も、施設建設など多額な支出に充てるための貯金や、万一の時に備えての貯金をしています。市の貯金は「基金」と呼び、野田市には、22種類の基金があります。



22種類ある基金の一つ、「財政調整基金」は、野田市で最も残高の多い基金です。

経済事情の変動で税収が不足する場合や、災害や大規模事業などでたくさんのお金が必要となった場合など、やむを得ない事情があったときに取り崩して活用しています。

今後、老朽化した公共施設の大規模改修などに備えて、残高目標を約60億円と定め、貯金に努めています。

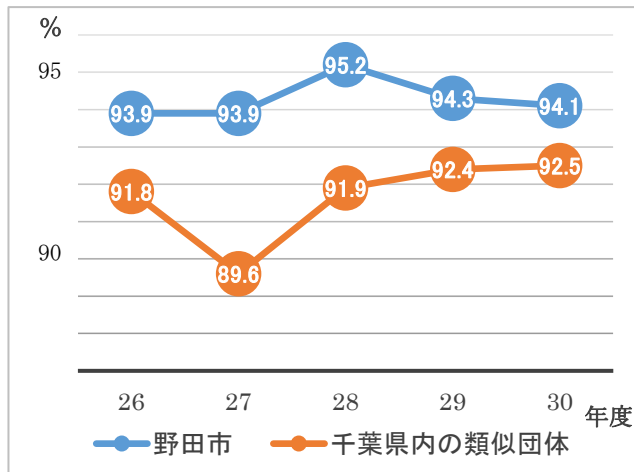




財政状況は大丈夫なの？

市の財政状況を、様々な指標を使って見てみましょう。

(1) 経常収支比率



類似団体・・・市町村を人口と産業構造の2要素で分類し、同じグループに入った団体

「経常収支比率」とは・・・

$$\frac{\text{生活費 (医療費・食費・借金返済など)}}{\text{使い道が自由な収入 (給与・パート収入など)}} \times 100 (\%)$$

比率が高いほど、自由に使えるお金が少なく、余裕がないことになります。比率は前年度に比べて少し低くなったものの、依然として県内の類似団体より高い水準であり、余裕がない状況です。



(2) 健全化判断比率

健全化判断比率とは・・・

自治体の財政破綻を未然に防ぐために、平成19年に「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」が定められました。自分の世帯（一般会計など）だけの状況だけでなく、影響を受ける子どもの世帯（下水道事業特別会計など）を含めた状況を見るもので、次の4つがあります。

- ① 実質赤字比率 : 自分の世帯の給与収入などに占める赤字の割合
- ② 連結実質赤字比率 : 自分の世帯の給与収入などに占める赤字（子どもの世帯を含む）の割合
- ③ 実質公債費比率 : 自分の世帯の給与収入などに占める借金返済額の割合
- ④ 将来負担比率 : 自分の世帯の負担になる借金総額が、自分の世帯の給与収入などの何年分に相当するかを示した割合

	野田市 (30年度決算)	イエローカード 基準	レッドカード 基準
①実質赤字比率	－ (赤字なし)	11.80%	20%
②連結実質赤字比率	－ (赤字なし)	16.80%	30%
③実質公債費比率	5.9%	25%	35%
④将来負担比率	26.9%	350%	－

野田市は、健全な状態なんだね



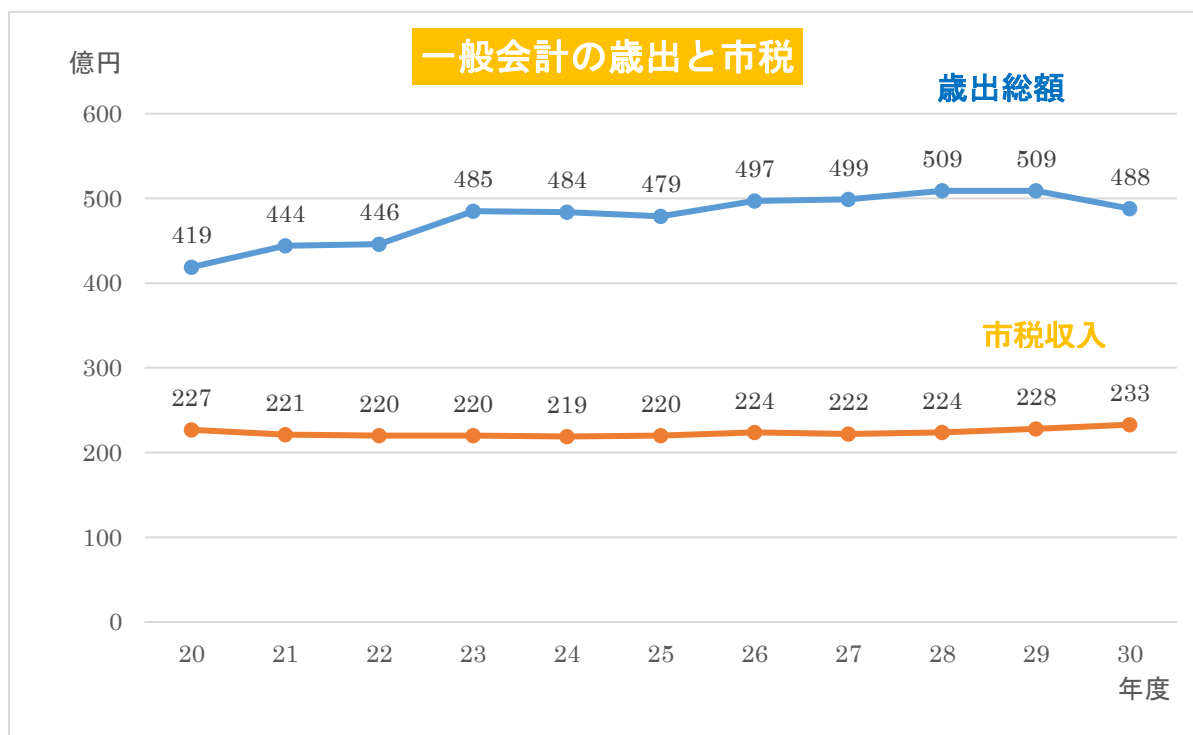


今後の見込みはどうなっているの？



一般会計の歳出総額と市税収入額の推移を見てみましょう。

歳出総額は昨年度より 21 億円減となったものの、10 年前に比べると 69 億円も増加しています。市の歳入の屋台骨であり、歳入の中で最も大きな割合を占める市税収入は、10 年前よりほぼ横ばいで推移しており、今後も大幅な増収を見込むことはできません。



今後も、皆さんに必要な新たなサービスを展開するために、平成 29 年度から全ての事業を見直し、ムダを省き、効率を上げることで資金を生み出す作業を続けています。





平成 30 年度はどんな事業を行ったの？

例えば、歳出決算での主な事業は次のとおりです。



子ども・子育て支援

・ 保育所の運営 (委託、補助を含む)	14 億 589 万円
・ 学童保育所の運営 (委託、補助を含む)	3億5,048 万円
・ 学童保育所の整備	1,597 万円
・ 子ども医療費助成	5 億 3,697 万円
・ 子ども支援室	1,219 万円



元気に遊んで学べる環境づくりを

都市基盤の整備

・ 鉄道高架事業	6 億 1,819 万円
・ 野田市駅西口の土地 区画整理	3億8,853 万円
・ 愛宕駅西口駅前広場 の整備	1 億 85 万円
・ 浸水対策	3 億 1,794 万円
・ 道路の改修・維持	10 億 4,994 万円
・ 公園	5 億 2,043 万円



高架化工事が進んでいる野田市駅
(平成 31 年 3 月時点)



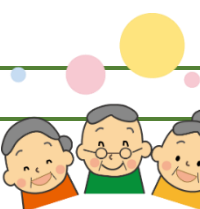


学校教育の振興

- 中学校トイレ洋式化 5,301 万円
- 就学援助 1 億 1,659 万円
- 土曜授業 2,076 万円
- 子ども未来教室 2,954 万円
- 学級事務支援員の配置 1,562 万円



公民館などで行う子ども未来教室



その他

- いちいのホール空調設備改修 1 億 5,263 万円
- 保健センター耐震補強等 1 億 612 万円
- まめバスの運行 1 億 2,194 万円
- 養護老人ホームの運営 8,592 万円
- 消防・救急 4 億 408 万円



空調設備を改修したいちいのホール

おわりに

これまで見てきたとおり、野田市は現在、健全な財政状況にはあるものの、経常収支比率は県内の類似団体に比べて高い水準にあり、決して余力のある状態ではありません。

一方、社会保障に関する費用や、老朽化してきた公共施設への対応など、今後、更に歳出が増加することも見込まれますので、ムダを省き、事業の優先度・緊急性などを踏まえながら、市民の皆さんのニーズにお応えできるよう、事業を進めてまいります。

ご理解ご協力をいただきますよう、お願いいたします。

令和元年 10 月 野田市 企画財政部 財政課

